

## 霧多布湿原におけるエゾシカの生息状況と行動

○佐藤瑞奈<sup>1)</sup> 漆原悟<sup>2)</sup> 吉田剛司<sup>1, 2)</sup>

1) 酪農学園大院 野生動物保護管理学 2) 酪農学園大学 環境共生

北海道では近年エゾシカの増加が問題となっており、約60万頭が生息していると推定されている。特に北海道東部に多く生息しており、農林業被害や国立公園等の保護区で植生被害が問題となっている。本研究の対象地である霧多布湿原は北海道東部に位置し浜中町に属している。霧多布湿原は鳥獣保護区に指定されており、さらには「霧多布湿原泥炭地形形成植物群落」として天然記念物にも指定されている。多様な環境から成立しており、低層湿原、中層湿原、高層湿原、塩生湿原と様々な湿原植生が存在する。また、タンチョウや多くの水鳥が飛来し営巣地となっていることからラムサール条約登録湿地にも指定されている。現在、霧多布湿原ではエゾシカが増加しており、植生被害が問題となっている。

そこで本研究では、霧多布湿原におけるエゾシカの生息状況の把握と行動を明らかにし、今後のエゾシカ対策への基盤データとすることを目的とする。

エゾシカの生息状況把握のためライトセンサスを実施した。調査ルートは湿原を通るMGロード約3kmに設定し、2014年11月から現在まで月に1回程度、低速走行（時速10～30km）の自動車から発見した個体の頭数、性別、年齢を記録した。行動把握のため2014年3月にメス成獣3頭と2015年3月にメス成獣3頭にGPS首輪を装着し行動を追跡した。

調査の結果、ライトセンサスでは2014年11月に最大38頭をカウントした。また、冬期に最も生息数が多くなり夏期には生息数は低下した。

GPS首輪を用いた行動追跡調査では最も長距離季節移動したもので夏期に浜中町と隣接している別海町まで移動していた。また、季節移動せず湿原内を行動圏に留まる個体も確認できた。この結果から、霧多布湿原はエゾシカの越冬地となっており冬期は他の地域からエゾシカが移動してきており、夏期に多くの個体は他の地域へ移動している事が明らかとなった。

本発表では調査結果をもとに霧多布湿原のエゾシカの生息状況や行動について考察し、今後の対策を検討する。